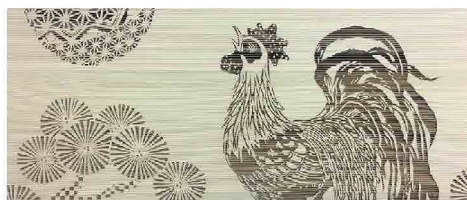


基本データ 人口 562人 面積 47.70km² (2020年10月時点)

赤岩溪谷よろい岩…黒滝川の河床から川岩一体に赤味を帯びた岩が連なる溪谷。山の緑とのコントラストはもちろん、四季折々の溪谷美が訪れる人々の目を楽しませてくれます



吉野杉透かし彫り…吉野杉の材質と木目の美しさを活かした黒滝村特産の美術工芸品。木目の夏目と冬目の特長を活かし線状美を表現しています



【まちの紹介・今後のビジョン】

黒滝村は、奈良県のほぼ中央に位置し「奈良県のへそ」ということで「へそもち」という「よもぎ餅」が特産品です。紀伊山地の北端にあたり、面積の約97%が山林の典型的な溪谷型山村です。古くは修験道の聖地である大峰山へ入山する修行者の街道、宿場町としての歴史があり、林業を基幹産業とし、最近では観光業への取組を進めています。

60年前の人口は約3,000人でしたが、過疎高齢化が進み、直近の国勢調査人口では660人、311世帯、高齢化比率は50%を超えている状況です。

黒滝村では「働きたくなる村づくり」、「住みたくなる村づくり」、「訪れたくなる村づくり」の3つの基本目標を掲げ、地域資源の掘り起こしと利活用により、文化財保護の推進と情報発信を行い、新しい人の流れをつくる取組を進めています。

明治の洋館復活プロジェクト

文化・芸術

明治末期に山間の地に建設された西洋風木造建築のモダンな元村役場庁舎。奈良県指定文化財、日本遺産にも指定され、現在は1階が多目的ホール、2階が村の民俗資料館として利用されています。1階ホールの型押鉄板天井やガス灯など国内での現存数が数例の貴重な文化財ですが、老朽化が進み建物全体の保全が喫緊の課題となっており、今後は全面リニューアルも検討しています。ぜひ建物保全及びリニューアルへのご支援をお願いします。



明治末期、山間の地に西洋風のモダンな建物が総工費8,000円(当時)で建てられました。その斬新さは山間の人々を鼓舞し、村民の誇り、シンボルとして親しまれ約70年間使われ続けました。現在は多目的ホール及び民俗資料館として利用されています



一階メインホールの型押鉄板天井(写真緑色部分)は国内での現存数が数例の貴重な文化財です。明治後期の洋館建築の天井を飾った金属製打出天井板は、歴史資料として現在では希少性が高いものです

【企業が得られるメリット】

年間約3万5千人の観光客が訪れるスポットで、歴史文化の整備を通して村の地域活性化を図り、企業としてのPR効果が得られます。

【関連するSDGsゴール】



旧役場庁舎 外壁劣化状況(1)



旧役場庁舎 外壁劣化状況(2)



旧役場庁舎 付土台他劣化状況(1)



旧役場庁舎 付土台他劣化状況(2)



旧役場庁舎内2階 黒滝村民俗資料館



旧役場庁舎 外観



コンサート(2019年12月)



旧役場庁舎 1階ホール



旧役場庁舎 遠景(黒滝森物語村)

旧役場庁舎

